

医療機関向け調査の結果について

1 概要

医療ツーリズムを推進する上での現状の把握及び課題等を明らかにすることを目的に、県内の病院に対して、平成 30 年度を対象期間とした「外国人患者の受入れ^{*}状況に関するアンケート」を実施した。

〔^{*}本調査において、「外国人患者の受入れ」とは、「愛知県の医療機関で受診することを目的に訪日した外国人患者に「健診・検診」や「治療」を実施すること」と定義し、単に観光や仕事等を目的に訪日した外国人が突然の病気等で受診した場合や、日本に在住する外国人患者に対する診療は除く。〕

2 調査対象

県内 276 病院

3 調査期間

令和元年 5 月 10 日（金）～ 5 月 24 日（金）

4 回収状況

201 病院から回答を得た。（回収率 72.8%）

5 調査結果

次ページ以降のとおり

※表中の数字は「病院数」。

また、四捨五入のため割合の合計が 100%にならない場合がある。

6 まとめ

- 県内の「30 病院が外国人患者の受入れを実施」している。
- 「中国」からの受入数が最も多く、受入れをしている診療分野・診療科は「健診・検診」が最も多い。
- 外国人患者受入れのために実施している（しようとしている）こととしては、「医療通訳を院外から必要に応じて手配」、「国際医療コーディネーターとの連携」、「多言語に対応した院内表示」、「契約書、同意書、検査内容説明書等の各種文書の多言語対応」が多くなっている。

(1) 病床数別にみた外国人患者受入れ状況

県内の30病院が外国人患者の受入れを「実施している」と回答し、病床数で見ると、8病院が「500床以上」、7病院が「100～149床」となっている。

病床数区分 (床)	N	平成30年度 から実施	平成29年度 以前から 実施	実施予定	検討中	未定	実施予定 はない
20～29	7	0(0.0%)	2(28.6%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(14.3%)	4(57.1%)
30～49	14	0(0.0%)	3(21.4%)	0(0.0%)	2(14.3%)	0(0.0%)	9(64.3%)
50～99	46	0(0.0%)	2(4.3%)	0(0.0%)	2(4.3%)	16(34.8%)	26(56.5%)
100～149	32	0(0.0%)	7(21.9%)	0(0.0%)	0(0.0%)	10(31.2%)	15(46.9%)
150～199	34	0(0.0%)	2(5.9%)	0(0.0%)	0(0.0%)	9(26.5%)	23(67.6%)
200～299	20	0(0.0%)	1(5.0%)	0(0.0%)	1(5.0%)	7(35.0%)	11(55.0%)
300～499	25	0(0.0%)	5(20.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	6(24.0%)	14(56.0%)
500以上	23	1(4.3%)	7(30.4%)	0(0.0%)	2(8.7%)	4(17.4%)	9(39.1%)
計	201	1(0.5%)	29(14.4%)	0(0.0%)	7(3.5%)	53(26.4%)	111(55.2%)

(2) 外国人患者受入れを実施した経緯

外国人患者の受入れを実施するようになった経緯としては、**13病院が「外国人患者又は家族からの依頼」と回答した。**

外国人患者受入れを実施する経緯	回答数 (N=28)
外国人患者又は家族からの依頼	13(46.4%)
自院の方針として自ら開始	7(25.0%)
国際医療コーディネーターからの紹介	4(14.2%)
保険会社からの紹介	1(3.6%)
旅行会社等からの紹介	0(0.0%)
他の医療機関が受入を行っている患者の検査の一部を受託	1(3.6%)
医療機関からの依頼	1(3.6%)
理事長知人からの紹介	1(3.6%)

(3) 外国人患者受入れ人数【複数回答】

外国人患者の受入れ人数は、「健診・検診分野」では中国が大部分を占め、他にはインドネシア、ベトナムとなっている。「治療分野」でも中国がほぼ半数を占め、他にはベトナム、インドネシア、アメリカなど全15か国となっている。

一人当たりの延べ入院・通院日数（平均）は、「健診・検診分野」では1～5日未満が大部分を占めている。「治療分野」でも1～5日未満が半数以上を占めており、次いで5～10日未満が多くなっている。

《健診・検診分野》

・延べ受入れ人数

受入れ人数 (N=10)	1～5人 未満	5～10人 未満	10～20人 未満	20～30人 未満	30～40人 未満	50～100人 未満
	5(50.0%)	1(10.0%)	2(20.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	2(20.0%)

・居住国別受入れ人数

受入れ人数 (N=13)	1～5人 未満	5～10人 未満	10～20人 未満	20～30人 未満	30～40人 未満	50～100人 未満
中国	5(31.2%)	1(6.3%)	2(12.5%)	0(0.0%)	1(6.3%)	2(12.5%)
インドネシア	4(25.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
ベトナム	1(6.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)

・一人当たりの延べ入院・通院日数（平均）

受入れ日数 (N=11)	1～5日 未満	5～10日 未満	10～20日 未満	20～30日 未満	30～40日 未満	50～100日 未満
	11(100.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)

《治療分野》

・延べ受入れ人数

受入れ人数 (N=13)	1～5人 未満	5～10人 未満	10～50人 未満	50人以上
	6(46.1%)	2(15.4%)	4(30.8%)	1(7.7%)

・居住国別受入れ人数

受入れ人数 (N=23)	1～5人 未満	5～10人 未満	10～20人 未満	20～30人 未満	30～50人 未満	50人以上
中国	6(20.0%)	1(3.4%)	2(6.7%)	0(0.0%)	1(3.4%)	1(3.4%)
ベトナム	2(6.7%)	1(3.4%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
インドネシア	2(6.7%)	1(3.4%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
アメリカ	2(6.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
ブラジル	1(3.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
台湾	1(3.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
タイ	1(3.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
トルコ	1(3.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
メキシコ	1(3.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
イギリス	1(3.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
韓国	1(3.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
インド	1(3.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
ネパール	1(3.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
マレーシア	1(3.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
フィリピン	1(3.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)

・一人当たりの延べ入院・通院日数（平均）

受入れ日数 (N=13)	1～5日 未満	5～10日 未満	10～20日 未満	20～30日 未満	30～40日 未満	50～100日 未満
	8(61.5%)	3(23.1%)	2(15.4%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)

(4) 外国人患者受入れの際の価格設定

外国人患者を受け入れるにあたり、**53.3%の病院が「診療報酬単価と同じ又はそれ以下」の価格に抑えている**。また、**23.3%の病院が「診療報酬単価の2倍以上 2.5 倍未満」、13.3%の病院が「診療報酬単価の3倍以上」の価格**としている。

N	診療報酬単価					
	同じ又はそれ以下	1.1 倍以上 1.5 倍未満	1.5 倍以上 2 倍未満	2 倍以上 2.5 倍未満	2.5 倍以上 3 倍未満	3 倍以上
30	16 (53.3%)	1 (3.3%)	2 (6.7%)	7 (23.3%)	0 (0.0%)	4 (13.3%)

(5) 外国人患者の受入れをしている（する予定の）診療分野・診療科【複数回答】

外国人患者の受入れをしている**診療分野・診療科**としては、「**健診・検診**」が最も多く、次いで「**概ね全診療・治療分野で受入**」が多くなっている。

診療分野	健診・検診	整形外科	循環器(内)科	消化器内科	リハビリテーション科	口腔外科
回答数	15 (34.9%)	2 (4.7%)	2 (4.7%)	1 (2.3%)	1 (2.3%)	1 (2.3%)
N=43	脳神経外科	形成外科	眼科	消化器外科	心臓血管外科	陽子線治療科
	1 (2.3%)	1 (2.3%)	1 (2.3%)	1 (2.3%)	1 (2.3%)	1 (2.3%)
	産科	婦人科	小児科	歯科	概ね全分野	
	1 (2.3%)	1 (2.3%)	1 (2.3%)	1 (2.3%)	11 (25.6%)	

具体的な疾患・治療内容等

- ・糖尿病治療・教育等
- ・大腸ファイバー検査
- ・変形性膝関節症、人工関節置換術
- ・脳動脈瘤頸部クリッピング術、皮膚皮下腫瘍摘出術
- ・白内障手術
- ・冠動脈カテーテル治療、末梢動脈カテーテル治療、カテーテルによる不整脈治療、ペースメーカー植込み (PM、ICD、CRT)、TAVI、MitraClip
- ・冠動脈バイパス術、弁膜症手術、大動脈手術、低侵襲心臓手術

(6) 外国人患者受入れに向けた体制整備【複数回答】

外国人患者受入れのために実施している（しようとしている）こととしては、「医療通訳を院外から必要に応じて手配」、「国際医療コーディネーターとの連携」、「多言語に対応した院内表示」、「契約書、同意書、検査内容説明書等の各種文書の多言語対応」が多くなっている。

外国人患者受入れに向けた体制整備	実施していること/ 実施しようとして いること（N=76）
外国人患者受入窓口（国際診療科等の専門部署・スタッフ）の設置	4（5.3%）
多言語に対応した院内表示	9（11.8%）
医療通訳を院内のスタッフとして配置	4（5.3%）
医療通訳を院外から必要に応じて手配	12（15.8%）
多言語に対応した医療従事者（医師・看護師など）の配置	7（9.2%）
外国人患者受入れに対応した診療施設、入院施設の設置	3（4.0%）
契約書、同意書、検査内容説明書等の各種文書の多言語対応	9（11.8%）
情報発信・プロモーション活動	7（9.2%）
国際医療コーディネーターとの連携	11（14.5%）
国際医療コーディネーター以外の機関（国内外の医療機関、自治体、旅行会社など）との連携	8（10.5%）
その他（国際医療コーディネーター育成研修への参加、国外に開設したクリニックからの紹介等）	2（2.6%）

(7) 外国人患者受入れにあたってのサービスの実施主体

外国人患者の受入れにあたって、「患者情報の入手」、「同意書の締結」、「医療通訳・医療結果翻訳」は、病院自ら又は外部委託により約7割が実施している。

業務名	概要	N	提供				未提供
			自院	外部委託		(小計)	
				有償	無償		
事前	患者情報の入手	28	13 (46.4%)	1 (3.6%)	6 (21.4%)	20 (71.4%)	8 (28.6%)
	同意書の締結	31	13 (41.9%)	5 (16.1%)	4 (12.9%)	22 (71.0%)	9 (29.0%)
	ビザの手配	28	1 (3.6%)	5 (17.9%)	1 (3.6%)	7 (25.0%)	21 (75.0%)
	必要書類の翻訳	37	8 (21.6%)	14 (37.8%)	1 (2.7%)	23 (62.2%)	14 (37.8%)
	来日搬送の手配	28	1 (3.6%)	5 (17.9%)	0 (0.0%)	6 (21.4%)	22 (78.6%)
	航空券・宿泊施設の予約	29	1 (3.4%)	3 (10.3%)	0 (0.0%)	4 (13.8%)	25 (86.2%)
滞在	空港・医療機関・宿泊施設の送迎同行	28	1 (3.6%)	5 (17.9%)	1 (3.6%)	7 (25.0%)	21 (75.0%)
	医療通訳・医療結果翻訳	32	10 (31.3%)	10 (31.3%)	2 (6.2%)	22 (68.8%)	10 (31.2%)
	院内での特別食の提供	30	16 (53.3%)	1 (3.3%)	0 (0.0%)	17 (56.7%)	13 (43.3%)
	支払い手続き	29	14 (48.3%)	3 (10.3%)	2 (6.9%)	19 (65.5%)	10 (34.5%)
	生活面・観光での支援	28	0 (0.0%)	5 (17.9%)	1 (3.6%)	6 (21.4%)	22 (78.6%)
帰国	アフターケアの支援・再診の調整	29	2 (6.9%)	3 (10.3%)	4 (13.8%)	9 (31.0%)	20 (69.0%)

※複数選択した病院があるため、N数が異なっている。

(8) 海外在住の外国人患者の受入れを断った経験

回答のあった 201 病院のうち **20 病院が海外在住の外国人患者の受入れを「断った経験がある」と回答した。**

断った理由としては、「**言語対応ができなかったため**」、「**診察できない内容だったため**」が多くなっている。

	あり	なし	不明等
海外在住の外国人患者の 受入れを断った経験 (N=201)	20 (9.9%)	162 (80.6%)	19 (9.5%)

〈断った理由〉

- ・ **言語対応ができなかったため。** (9 件)
- ・ **診察できない内容だったため。** (4 件)
- ・ 受入れ体制が整っていないため。(2 件)
- ・ 健診の日程が先方の希望に沿えなかったため。(2 件)
- ・ 自由診療の受入れを原則として行っていないため。
- ・ 当院が定める受け入れルールに準じていなかったため。
- ・ 当院が担っている役割に則した治療内容に該当しなかったため。
- ・ 患者が期待する治療効果が当院の治療では提供できないと思われたため。
- ・ 医療費の問題のため。

(9) 外国人患者の受入れのため、海外へ情報発信したい技術・機器又はサービス等【自由記載】

- ・ F U S (収束超音波装置)、放射線、化学療法、温熱療法等の総合的がん治療、検診、リハビリ、糖尿病などの教育入院
- ・ 予防医療 (人間ドック) 等
- ・ 放射線治療装置であるトモセラピーや微小ながんでも発見することが出来る PET-CT、全身の微細な病変を高画質で撮影可能な 3.0T MRI 装置等の医療機器を導入している。
- ・ 放射線治療の一つである陽子線治療を行える施設がある。

- ・病院併設型の施設のため、病院が持つ医療設備等を人間ドックで使うことができる。(PET-CT 検査、MRI 検査など)
- ・小児科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、総合アレルギー科が連携を取り、領域横断的な診察を行う総合アレルギーセンターを設立した。各診療科のエキスパートが定期的にカンファレンスを行い、従来の縦割り診療ではなし得なかった包括的なアレルギー診療が可能。今まで治療に難渋していた症例の原因抗原の解析、治療が可能。
- ・全診療科・診療部門が患者安全を第一に優先し、最先端の設備をもって、スタンダードな医療から次世代の新規医療の開拓を行っている。
- ・PET-CT、320 列 CT、3 テスラ MRI、マンモグラフィ検査、放射線治療、ロボットによる癌治療、コンシェルジュ（院内での治療・検査室への案内係）の配置等、最新の医療機器と患者サービスの提供。
- ・【循環器内科】冠動脈カテーテル治療、末梢動脈カテーテル治療、カテーテルによる不整脈治療、ペースメーカー植込み、また、東海地方で1番最初に TAVI、MitraClip を施行した施設。豊富な経験を持つ上手な医師に、県外や、遠方からも他院で治療困難であった患者が数多く来院する。また、当院の医師が世界中を飛び回り、各国での治療困難な症例の治療をしている。
 - 【心臓血管外科】心臓手術の経験と実績のもと、高齢の患者や多くの合併症を抱える患者に対して、全国から多くの紹介をいただいている。他院で手術が難しいといわれた患者の紹介も多くいただくようになり積極的に治療を行っている。冠動脈バイパス術、弁膜症手術、大動脈手術、低侵襲心臓手術（肋骨と肋骨の間を5~10cmほど切開して手術する Minimally Invasive Cardiac Surgery: MICS、内視鏡等を当院でも導入している。冠動脈バイパス手術、弁膜症手術において患者様の術前の状態、疾患の程度を考慮し胸骨を切らない MICS が行えるか判断する。胸骨を温存するので早期退院が可能。）
- ・外国人受け入れ専用施設の設置、手術支援ロボットを使用した外科手術、ロボットを使用したリハビリテーション。現時点でのターゲットは、中国、東南アジアを想定している。
- ・大腸CT検査（健康診断のみ対応）
- ・内視鏡を使用することで、これまで以上に精密な手術が可能である。特に網膜剥離、増殖性硝子体網膜症を併発した難治性網膜剥離を含めても最終成功率は約99%と好成績である。ターゲットはアジアを中心に全世界。
- ・日本の周産期医療を、すでにベトナム、モンゴル等にて当地の医療機関と協力して展開中（予定）である。

(10) 海外在住の外国人患者の受入れ全般についての意見・要望等【自由記載】

〈不安な面〉

- ・言葉や文化、生活習慣の問題がある。(8件)
- ・医療費の支払いが心配。(4件)
- ・術後のフォロー等受け入れには課題が多いと思う。

〈課題・要望〉

- ・未収金問題に対する対応が必要。(手続きの簡素化, 立替制度等) (3件)
- ・通訳の制度を充実させてほしい。(2件)
- ・受入れ患者に対する情報からサービスまで全体を管理するコーディネーターが必要である。(2件)
- ・選定療養費を理解しようとしなない外国人が多すぎる。
- ・通訳の手配や医療コーディネーターとの連携等も必要となる。個々の医療機関だけでは出来ることに限界があると思われる。官民が協力して体制が整えられることを期待する。
- ・他の医療機関での外国人患者受け入れ態勢(方法)やこれまでに発生したトラブル事例などについてもお伺いできればと考えている。
- ・健診時間が通常の倍かかる。
- ・外国人の患者情報を円滑にやり取りするための医療情報システムの構築が必要。医療機関が単独で個別に行うのは負担が大きい。

〈その他〉

- ・自院は、海外在住の外国人患者にはニーズがないと思われる。(3件)
- ・今後対応策を検討していかないといけない。(2件)
- ・人工透析の治療を要する外国人患者に対しては対応することがある。
- ・受入れできればと思うが、なにから手を付ければよいのか不明。
- ・対応に時間がかかり、あまりメリットがないため、積極的な受け入れを行っていく予定はない。
- ・外国人患者に対する受入れ態勢(言語面等)が十分に整っておらず、現状受入れの拒否は行わないが、積極的に受け入れをアピールしていくという考えではない。
- ・健診から治療までできる病院を確立させ、確率した病院の体制作りと海外への情報発信が必要。